

# 鳳凰網 健康

## 結核との診断後私は職場に隠して仕事を続けた | 医療看護師の述懐

凤凰网健康

health.ifeng.com

2024-03-24

14:00:58 来源: 浙江省

本文作者: Kimi

今日は 3.24 世界結核デーだ

胡楠は、恩師に再会しようと母校に戻った時、病気の体を引きずることになるとは予想していなかった。両鬢に白髪が混じった先生が辛そうに自分を見つめるのを見て、思わず彼女は視線を窓外に向け、恩師を見る勇気がなかった。「胡楠さん、現時点では腸結核かクローン病かの判断は難しい。ここに少し留まって様子を見てはどうだろうか。職場には私が行って話をするよ。」胡楠はしばらく沈黙し、首を横に振った：「先生、ありがとう。でも、来週は娘の大学入試なんです。私には無理…」

20年以上働き続けてきた胡楠は、学んできた知識の全てを日々、患者を助けることや励まし、慰撫することに使い、毎朝病院で病床にある患者たちにこう言った：「これはみな些細なこと、必ず良くなるわよ。」

恩師が語るように、医師自身が弱気になれば、どうして患者が病気に打ち勝つことを支えられるだろうか？が、胡楠は今日初めて本当に病気の中心にいることがどれほど胸の張り裂けるようなものか意識した。

### 部門唯一の上級専門家である彼女は、同僚に「隠れて」結核を治療

「2022年5月27日、排便パターンの変化を自分で検査してから20日が経ちましたが、今日、やっと時間が取れて、ずっと受けたかった消化器の内視鏡検査予約ができました。結果、回盲部に潰瘍がみつかり、兄弟子は結核を考えていると言い、結核病院に行きツベルクリン検査を受けるため午後に休暇をもらいました。2022年5月28日、私は陽（宮本注：漢方学の『陽』のことみたいですが、私は漢方にあまり知見が無いのでごめんなさい）が強く、病理検査で LGIN を伴う粘膜の慢性活動性炎症が見られ、1か月分の抗結核三剤併用を処方されました。2022年5月30日、排便回数が増え漠然とした腹痛を感じ、再度受診を申請し、クローン病を疑い上級病院を受診することにしました。」

5月27日、感觉排便形态改变快一个月，抓紧时间约了一直想做的胃肠镜。结果回盲部溃疡，说考虑结核，下午请假去结核医院行结核菌素试验。

【5月28日，强阳，病理显示粘膜慢性活动性炎症伴 LGIN，拿了抗结核三联一个月药量

5月30日，自觉排便次数增多且隐有腹痛，再次申请会诊，怀疑克罗恩，决定找会诊

6月1日，说很可能合并IBD，无法鉴别诊断。抗结核一个月复查

南西部某省にある地級市レベルの病院で看護師をしている胡楠は、腸結核と診断されて以来、毎日、闘病記のように自分のための日記を書き続けている。20年以上医療を続けてきた老女胡楠は、普通の患者よりも自分に自信を持っていることが自分の利点だと信じており、胡楠は、自分の排便が変化していることに気づいた時から現在に至るまで、結核が治らないものとは考えてもみなかった。「医師の指示に従って標準的治療をすれば、結核患者のほとんどは治ります。私は患者さんによくこのように伝えていきます。」

だが、その後の治療中に、胡楠は腸結核が自分自身に予期せぬ苦難と苦痛をもたらしたことを認めざるを得なかった。「私が結核病院から退院した当日、病院の指導者が電話をくれました。」指導者は、胡楠の治療費は労災補償を通じて補償され、通常取得の難しい年休も取得できるようになり、今ゴーサインを出すことも可能だと述べた。

胡楠は指導者の見舞いを受けた際に別の話を聞いた：対外的には、指導者らは胡楠が自分の病状を秘密にするよう望んでいたのだ。病院にとっては、高給取りの看護師が結核に罹患することは恥ずかしいことであり、胡楠が検査の結果、それが伝染性のものであることが完全に証明されたにもかかわらず、指導者は、この問題が広がると世論に一定の影響を与えるだろうと依然感じているのだ。

秘密にすること、これは胡楠の腸結核治療期間中の主旋律であるとともに、彼女自身の計画と一致した。胡楠は、自分はずでに副高級主任看護師だが、今なお正高級看護師への夢を持っており、正高級看護師

になるためのいくつかの指標達成にむけ懸命に努力していると語る。しかし、腸結核が不安定要素となっており、「ここでは、私たちにとって自分が病気であることは正高級看護師選考に悪影響を非常に与え、決定的なマイナス要素にすらなります。」胡楠は、個人的な観点からはあまり多くのことを望んでおらず、同時にまた人々に自分の病状を知られたくはない：

胡楠は、腸結核を克服するという自信を失ったことは一度もなかったが、腸結核による生き地獄と苦痛は相殺できなかつたと率直に語った。「未知の答えを前にして、私は疑念を持ち始めたのです。」

### 速やかに発見できなかつたと責められる結核治療には「壁がある」？

結核がもたらす影響は、臨床治療面だけではない。学生などのグループは、専門的な知識を有する医師と明確なメカニズムよりも、よりデリケートで扱いにくい治療環境に置かれている。

「発見するのが遅すぎたよ。少なくとも1年半を無駄にしちゃったね。」

この言葉を聞いて、張楽欣の心はえぐられるようで、もう涙をこらえきれなかつた。「私は明らかに治療に協力するために大変努力してきたのになぜ医師たちは私の問題だというのでしょうか？」

医学部4年生の張楽欣は、微熱と下痢が続いたため末端医院を受診した。医師は大腸内視鏡検査の結果に基づき彼女をクローン病と診断し、輸入薬剤を入手するには三級甲等（中国ではトップクラスの病院になります）の病院に行かねばならないと張楽欣に告げた。その後、張楽欣は次々と病院に通い始めることになった。

張楽欣は初めから（？上段パラグラフで次々と病院を回ったとあるのにこれは何だろう？）上海の某病院の専門家を受診したが、その専門家は、クローン病は半年以内ならそれほど急速な進展をすることはないと語った。続いて張楽欣が喀痰の検査と胸部CT検査を受けたところ、結核ということが判明。専門家は、張楽欣がクローン病ではなく、結核による痰を飲み込んだことにより引き起こされる腸結核ではないかと考え彼女を上海公衆衛生センターに転院にさせた。

#### 鏡検所見:

回盲部及回盲瓣口见多发溃疡性改变，回盲瓣口伴有狭窄，肠镜不能通过，横结肠及肝曲见多发不规则溃疡，约2.0\*3cm大小不等，表面覆白苔，触之易出血，肝曲予以活检4块，送病理，所见降结肠，乙状结肠，直肠粘膜无明显充血水肿，血管纹理清晰，肛检无明显异常。

诊断: 克罗恩病

活检部位: 肝曲，回盲瓣

建议: 门诊治疗

出典：張楽欣提供

公衆衛生センターで張楽欣は腸結核の方案に基づき1か月間治療を受け、体重は5斤（『1斤』は500グラムです）増加し、腹痛は大幅に緩解した。しかし、結腸内視鏡検査後に、この医師が新たな視点を持った：回盲弁の口側に明らかな狭窄があり、それはクローン病なのだが、このことから腸結核とクローン病が合併したのではと推測できるが、クローン病治療は結核を治癒してからでないといはれら

れない。これを聞き、張楽欣は氷穴に落ちてしまったような気分になった。

このようにして、張楽欣のとても長い結核の治療プロセスが始まった。良いニュースは、結核薬の三剤併用治療により、大腸内視鏡検査の結果では改善を示され続け、クローン病を排除できたことだ。が、悪いニュースは、三剤併用開始から1年後、張楽欣に新たなポリープの傷跡が見つかり、回腸末端が充血していたことだ。上海の別の病院では、医師が彼女に、過去1年半にわたり間違った服薬をしていたので、投薬計画を立てるためにも再入院の必要があると直接告げられた。

張楽欣は、この2年間、上海にあるさまざまな病院を訪れ、多くの結核患者と接触したと語った。彼女は、ほとんどの患者が全国各地から来ており、病院間を行ったり来たりしていることに気づいた。

「結核治療にはギャップがあるようだということに気づきました。地方の結核病院から大都市の結核病院まで、あるいはいくつかの三甲クラスの病院まで、とりわけ医師が異なれば治療計画も異なるのです。」張楽欣は、変化の全てが患者にとっては新たな宣告に等しいと感じているのだ。

「結核治療にあたる医師は全て、専門的観点から始めることを保証できますが、この出発点は医師のレベルと検査条件によって異なるのです。」沿海地区の某結核病院の李超副主任医師は、結核診療におけるこの格差は、腸結核と炎症性腸疾患（IBD）で特に顕著だと述べた。

李超医師は、これは診断と治療の矛盾だと感じている。「現在、一部の結核病院医師は炎症性腸疾患の診療や制御が苦手であり、一部の検査設備は三級甲等の病院ほど進んでおらず；三甲病院の診断方法は先進的なのですが、一部の医師は結核患者の処置に際して診断を下して公衆衛生病院に搬送するだけの人も存

在しており、病気そのものについて十分に考えていない場合があります。」

### 銭、時間、紹介： 定点病院間を奔走

更に、結核発見の過程においては「Time and Money」も大きなチャレンジとなる。

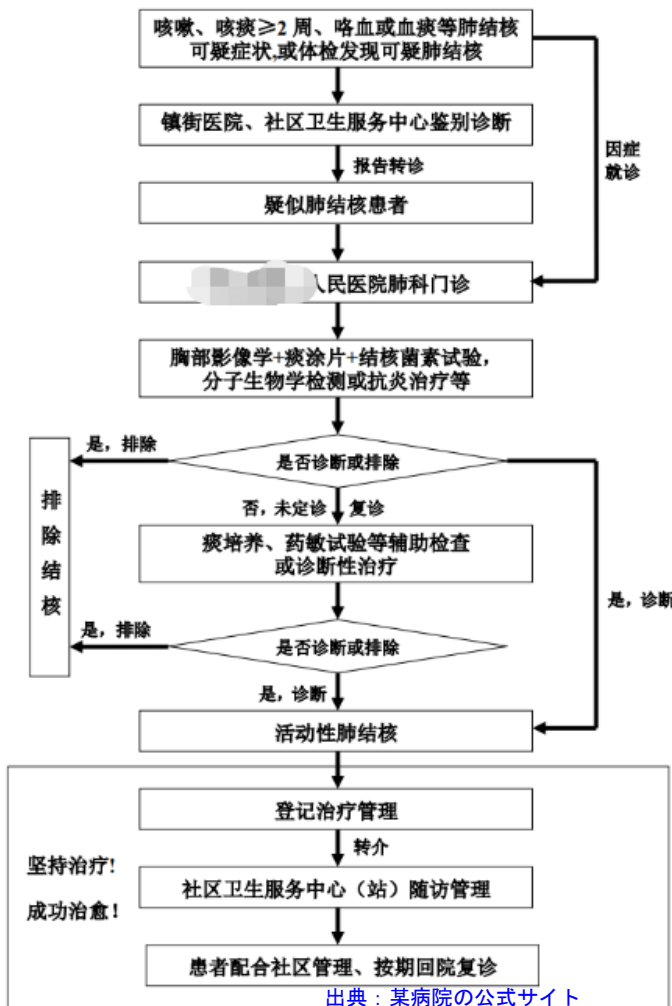
中国では、患者の医療負担軽減のためには、公衆衛生建設制度や住民の健康・生命保障制度により結核患者への支援を惜しまない。

2017年、国務院弁公庁が発行した『第13次全国結核予防管理五カ年計画』の中で、財政支援の強化と中央政府による基本公衆衛生サービス事業の実施により、保障レベルを絶えず向上し、患者の医療負担を削減させると明記している。

遼寧省某市の疾病管理センターで働く丁昊は、結核患者の中絶手術と同時に彼らの補助金申請を手伝うことに日々の大半を費やしている。

丁昊は、結核患者に対する補助金については、一方で医療保険や慢性疾患保険からの医療補助に依存しているが；他方で結核患者には一定の補助が提供されていると述べた。「地区により助成金には差がありますが、定点病院がカルテを作っていれば必ず受けとれます。」

### 結核病人发现、转诊、诊断、治疗流程图



しかし、依然として患者が定点病院で身動きもままならない場合もあるのだ。

広東省の地級市に住む林鳳霞は、最近頭痛に悩まされている。林鳳霞は当初、病院でのCTスキャンにより、結核の疑いがあると診断され、その後T-SPOT検査でも陽性反応が出た。状況が報告された後、当地の疾病管理部門は、診断確定するには指定病院に行って検査を受けないとならないと語った。

定点病院に行った後、林鳳霞の結果は、喀痰検査では陰性、入院後の気管支鏡検査も陰性を呈し、定点病院の医師は阿鳳に明確な診断を下さず、1. 無料の抗結核薬を処方した後に再検査をする、2. より上級の病院に行き診断してもらうという2つのオプションを与えた。

林鳳霞は結核が何かも分からず、陽性や陰性の意味も知らず、知っていたのは自分が4日間の休暇を取ったということだけだった。もし診断がつかない場合、今月の皆勤ボーナスが払われなくなる上に給与が4日差し引かれることになるのだ。

それゆえ林鳳霞は歯を食いしばり、彼女のマネージャーに上級の公衆衛生病院に行きたいのもう一日休暇をくれと頼んだ。

しかし、公衆衛生病院の医師らは、下級病院での検査結果は上級病院では使えないので新たに喀痰検査と気管支鏡検査を行う必要があると告げた。これには林鳳霞も涙を流さぬも泣きたくなった。

林鳳霞の働いている会社の規定では、連続5日以上休んだ場合、その月の業績はゼロになってしまうのだ。

記事中の胡楠、張樂欣、李超、林鳳霞、丁昊はいずれも仮名

## After I was diagnosed with tuberculosis, I kept going to work without telling the department | A Nurse's Monologue

Ifeng.com

health.ifeng.com 2024-03-24

14:00:58 Source: Zhejiang Province

Author of this article: Kimi

Today is 3.24 World Tuberculosis Day

Hu Nan did not expect that when she returned to her alma mater to see her teacher again, she would be dragging a sick body. Seeing her gray-haired teacher looking at her with a distressed expression, she involuntarily turned her gaze to the window and did not dare to look at him. "Xiao Nan, it's hard to decide whether you have intestinal tuberculosis or Crohn's disease at the moment. Why don't you just stay here and observe. I'll go and talk to your workplace." Hu Nan was silent for a moment and shook his head: "Thank you, teacher, but my daughter will take the college entrance examination next week. I can't..."

After working for more than 20 years, what Hu Nan does every day is to use all the knowledge she has learned to help, encourage and comfort patients. She says to the patients in the hospital bed every morning: "This is all a minor problem, you will get better."

As the teacher said, if doctors themselves are timid, how can they help patients overcome their diseases? But it wasn't until today that Hu Nan realized how heart-wrenching it was to truly be in the center of the disease.

The only senior professional in the department, she treats tuberculosis "hiddenly" from her colleagues

"On May 27, 2022, it has been 20 days since I self-examined the change in bowel movement pattern. Today I finally had time to make an appointment for a gastrointestinal endoscopy that I had always wanted to do. The result was an ulcer in the ileocecal area. The senior brother said that he was considering tuberculosis and asked for leave in the afternoon to go to the tuberculosis hospital for a tuberculin test. On May 28, 2022, I had a strong Yang, and pathology showed chronic active inflammation of the mucosa with LGIN, so I took a month's worth of anti-tuberculosis triple combination. On May 30, 2022, I felt that the frequency of defecation increased and I had vague abdominal pain. I applied for consultation again. I suspected Crohn's disease and went to a higher-level hospital to continue consultation."

<<Picture 1>>

Hu Nan is a nurse at a prefecture-level hospital in a southwest province. Ever since she was diagnosed with intestinal tuberculosis, she has been writing a diary for herself every day like a medical diary.

As an old woman who has been a nurse working for more than 20 years, Hu Nan believes that her advantage over ordinary patients is that she is more confident, Hu Nan, from the time she noticed changes in her bowel movements until today, never thought that she would not be able to cure tuberculosis. "As long as the treatment is standardized according to the doctor's instructions, the vast majority of tuberculosis patients can be cured. I often tell my patients this."

But during the subsequent treatment, Hu Nan had to admit that intestinal tuberculosis did bring unexpected hardships and pain to herself. "The day I came out of the tuberculosis hospital, the hospital leader called me." The leader said that Hu Nan's treatment expenses can be reimbursed through work-related injury reimbursement, and annual leave, which is usually difficult to take, can now be given the green light.

Hu Nan heard another meaning when the leader came and comfort: externally, leaders hope that Hu Nan will keep her condition confidential. For hospitals, it is a disgraceful thing for a senior nurse to contract tuberculosis. Although Hu Nan's examination has fully shown that she is not contagious, the leader still feels that if this matter spreads, it will still have a certain impact on public opinion.

Secrecy was the main theme of Hu Nan's treatment for intestinal tuberculosis, which coincided with Hu Nan's own plan.

Hu Nan said that although she is already a deputy senior chief nurse, she still has the dream of becoming a senior nurse and is working hard to achieve several indicators of becoming a senior nurse. But intestinal tuberculosis has become an unstable factor. "Here in our country, being sick is very detrimental to the selection of senior executives. It is even a decisive negative factor." From a personal point of view, Hu Nan does not want too many people to know about his condition. "Intestinal tuberculosis is often taken over and turns into Crohn's disease, which is very annoying."

Hu Nan said frankly that she had never lost confidence in defeating intestinal tuberculosis, but this could not offset the torture and pain caused by intestinal tuberculosis: "Facing an unknown answer, I started to become suspicious."

Being blamed for not detecting it in time, is there any "wall" in tuberculosis treatment?

The impact of tuberculosis is not only in clinical treatment. Groups such as students are in a more delicate and awkward treatment environment than doctors with professional knowledge and clearer mechanisms.

“You discovered it too late. At least a year and a half of your time was wasted.”

Hearing these words, Zhang Lexin's heart seemed to be dug out, and she could no longer control her tears: “Though I've obviously worked very hard to cooperate with the treatment, why do the doctors think it's my own problem?”

Zhang Lexin, a senior medical student, came to a primary hospital for treatment due to persistent low-grade fever and diarrhea. The doctor diagnosed her with Crohn's disease based on the colonoscopy results and told Zhang Lexin that she needed to go to a tertiary hospital to get imported medicine. After that, Zhang Lexin started going to one hospital after another.

At first, Zhang Lexin contacted an expert from a hospital in Shanghai. The expert said that Crohn's progress would not progress so quickly within half a year. Zhang Lexin then underwent sputum examination and chest CT, and the results showed that she had tuberculosis. Therefore, experts believe that Zhang Lexin may have intestinal tuberculosis caused by swallowing phlegm due to tuberculosis, not Crohn's disease. Therefore, experts believe that Zhang Lexin may have intestinal tuberculosis caused by swallowing phlegm due to tuberculosis, not Crohn's disease, and let her be transferred to Shanghai Public Health Center.

<<Picture 2>>

Source: Provided by Zhang Lexin

At the public health center, Zhang Lexin was treated according to the intestinal tuberculosis protocol for one month. Her weight increased by 5 pounds and her abdominal pain was significantly relieved. But after a colonoscopy, the doctor here had a new perspective: The ileocecal valve orifice is accompanied by obvious stenosis, which is Crohn's disease. Therefore, it is speculated that intestinal tuberculosis is combined with Crohn's disease. Crohn's disease can only be treated after the tuberculosis is cured. This news made Zhang Lexin feel like she had fallen into an ice cave.

In this way, Zhang Lexin began the long process of tuberculosis treatment. The good news is that with the triple regimen of tuberculosis drugs, colonoscopy results have been showing improvement, and Crohn's disease has been ruled out. But the bad news is that one year after Sanlian, Zhang Lexin discovered new scars, polyps and congestion in the terminal ileum. At another hospital in Shanghai, the doctor directly told her that she had been taking the wrong medicines for the past year and a half and that she needed to be readmitted to the hospital to arrange a medication plan.

Zhang Lexin said that in the past two years, she had traveled to various hospitals in Shanghai and had contact with many tuberculosis patients. She found that most of the patients came from all over the China and were transferred back and forth between hospitals.

“I found that there seems to be a gap in the treatment of tuberculosis. Whether it is from local tuberculosis hospitals to tuberculosis hospitals in big cities, or between several major tertiary hospitals, and even different doctors have different treatment plans.” Zhang Lexin feels that every change is no less than a new sentence for the patient.

“Every doctor who treats tuberculosis can guarantee that he starts from a professional perspective, but this starting point depends on the doctor's level and examination conditions.” Li Chao, deputy chief physician of a tuberculosis hospital in coastal areas, said that the gap in diagnosis and treatment of tuberculosis is particularly prominent in intestinal tuberculosis and IBD.

Dr. Li Chao feels that this is a misalignment of diagnosis and treatment. “Currently, some doctors in tuberculosis hospitals are not good at diagnosing, treating and managing IBD, and some examination equipment is not as advanced as in major tertiary hospitals; Tertiary hospitals have advanced diagnostic methods, but some doctors may treat tuberculosis patients by just diagnosing and transferring them to public health hospitals, lacking some thinking about the disease itself.”

**Money, time, referrals: traveling between designated hospitals**

In addition, "money and time" are also big challenges in the process of tuberculosis discovery.

In China, in order to reduce the medical burden on patients, the public health construction system and the residents' health and life security system spare no effort to support tuberculosis patients.

In 2017, the General Office of the State Council issued the “13th Five-Year Plan for National Tuberculosis Prevention and Control Plan” which clearly stated that financial support will be increased, the central government will continue to

improve the level of security and reduce the cost of patient care by setting up special subsidies and implementing basic public health service projects.

Ding Hao, who works at the Center for Disease Control and Prevention in a city in Liaoning Province, spends a large part of his day conducting abortions on tuberculosis patients and helping them apply for subsidies.

Ding Hao shared that subsidies for tuberculosis patients, on the one hand, rely on medical subsidies from medical insurance and chronic disease insurance; on the other hand, they provide certain subsidies to tuberculosis patients. "The subsidy differences vary from region to region, but as long as a designated hospital has established a file, you can definitely get it."

Source: Official website of a certain hospital

However, sometimes patients are still stuck in designated hospitals.

Lin Fengxia, who lives in a prefecture-level city in Guangdong, has been having headaches recently. Lin Fengxia was initially diagnosed with suspected tuberculosis during a CT scan at the hospital, and later her Tspot test also showed positive. After the situation was reported, the local disease control department stated that it was necessary to go to a designated hospital for examination to confirm the diagnosis.

After going to the designated hospital, Lin Fengxia's results showed that the sputum test was negative and the in-hospital bronchoscopy was negative, the doctor at the designated hospital did not give Ah Feng a clear diagnosis, but gave her two options: 1. Prescribe free anti-tuberculosis drugs and then review her; 2. Go to a higher-level hospital for diagnosis.

Lin Fengxia did not know what tuberculosis was, nor did she know what positive and negative were. She only knew that she had taken four days off. If there is no diagnosis, the full attendance and bonus for this month will be lost, and four days of salary will be deducted.

Therefore, Lin Fengxia gritted her teeth and asked her manager for another day off to go to a higher-level public health hospital.

However, doctors from the public health hospital said that the test results of the lower-level hospitals were not recognized by the higher-level hospitals, and they needed to do a new sputum test and bronchoscopy. This made Lin Fengxia want to cry without tears.

According to the regulations of Lin Fengxia's company, if she takes leave for more than five days in a row, her performance for the month will be 0.

In the article, Hu Nan, Zhang Lexin, Li Chao, Lin Fengxia, and Ding Hao are all pseudonyms

..... 以下是中国語原文 .....

## 确诊结核之后，我瞒着科室继续上班 | 医护自述

凤凰网健康 health.ifeng.com 2024-03-24 14:00:58 来源：浙江省

本文作者：Kimi

今天是 3.24 世界防治结核病日

胡楠没想到，再一次回到母校看自己的老师，是拖着病体残躯。看着已经两鬓斑白的老师一脸心疼的望着自己，她不自自主将目光切到窗外不敢对视。「小楠，目前很难下定论你是肠结核还是克罗恩，你要不要就留在这观察一下，工作那边我去说说话。」胡楠沉默片刻，摇了摇头：「谢谢老师了，但我女儿下周就高考了，我不能在这个时候...」

工作二十多年来，胡楠每天都在做的事情，就是用所有自己学的知识帮助患者、鼓励患者、安慰患者，每天早上跟病床的患者说：「这都是小毛病，你一定会好起来的。」

像老师说的那样，如果医者自己就心怀胆怯，又怎么能帮助病人战胜疾病呢？可直到今天，胡楠才意识到，真正落入疾病中心的设身处地，是多么揪心。

### 科里唯一的高级职称，「瞒」着同事治结核

「2022年5月27日，自查排便形态改变20天，今天终于有时间约了一直想做的胃肠镜。结果回盲部溃疡，师兄说考虑结核，下午请假去结核医院行结核菌素试验。2022年5月28日，强阳，病理显示粘膜慢性活动性炎症伴LGIN，拿了抗结核三联一个月药量。2022年5月30日，自觉排便次数增多且隐有腹痛，再次申请会诊，怀疑克罗恩，去上级医院继续会诊。」

<<图 1>>

胡楠是西南某省地级市医院的护师，自从发现肠结核之后，她每天都像写病历一样给自己写日记。

作为一名从业二十几年的老人，胡楠认为自己相比于普通患者优势是更自信，从观察到自己出现排便改变到现在，胡楠从没有想过自己会治不好结核。「只要按医生要求规范治疗，绝大多数结核病人都是可以治愈。这句话我经常跟病人讲。」

但在后续的治疗过程中，胡楠不得不承认，肠结核确实给自己带来了意料之外的磨难与痛苦。

「从结核医院出来的当天，院里领导就给我打了电话。」领导表示，胡楠的治疗费用都可以走工伤报销途径，平时比较难请的年假，现在也可以开一开绿灯。

从领导的慰问中，胡楠听到了另一层意思：对外上，领导希望胡楠做好自己病情的保密工作。

对于医院来说，一个高年资护士得了结核是一个不太光彩的事情—尽管胡楠的检查已经充分显示了自己不具备传染性，但领导依旧觉得这件事传出去还是会造成一定的舆论影响。

保密，是胡楠治疗肠结核期间的主旋律，这也和胡楠自己的打算不谋而合。

胡楠表示，自己虽然已经是副高级主任护师，但是仍然有着正高级的梦想，在为了正高级的几个指标努力。但肠结核成为了一个不稳定因素，「在我们这里，患病对正高级的评选非常不利，甚至是一个决定性的负因素。」从私人角度讲，胡楠也不希望太多人知道自己的病情：「肠结核经常传着传着，就变成了克罗恩病，烦得很。」

胡楠坦言道，自己从来没有过去战胜肠结核的信心，但这并不能抵消肠结核给她带来的折磨与痛苦：「面对一个未知的答案，我也开始变得疑神疑鬼起来。」

被责怪发现不及时，结核治疗「有壁」吗？

结核带来的影响，从不仅在临床治疗方面。比起有专业知识的医生和更清晰的机制，学生等群体处于更加微妙和尴尬的治疗环境。

「你发现的也太晚了，至少白白耽误了一年半的时间。」

听到这句话，张乐欣的心脏仿佛被狠狠挖了一块儿，再也控制不住自己的泪水：「我明明已经很努力的配合治疗了，为什么医生都觉得，是我自己的问题？」

张乐欣是一个大四医学生，因为持续的低烧和拉肚子来基层医院就诊。医生根据肠镜结果诊断其为克罗恩症，告知张乐欣需要去大三甲医院开进口药。之后，张乐欣就开始了一家又一家医院的辗转之路。

一开始，张乐欣联系了上海一家医院的专家，专家表示克罗恩的进展一般不会在半年内进展这么快。之后张乐欣进行了痰检和胸部 CT，结果显示为肺结核。于是专家认为，张乐欣可能是由肺结核吞痰引起的肠结核，并不是克罗恩。让她转院到上海公共卫生中心。

<<图片 2>>

图源：张乐欣提供

在公共卫生中心，张乐欣按照肠结核方案治疗了 1 个月，体重增加 5 斤，腹痛明显缓解。但在一次肠镜后，这里的医生有了新看法：回盲瓣口伴有狭窄明显，是克罗恩，也因此推测是肠结核合并克罗恩，只能把结核治好之后，再治疗克罗恩。这个消息让张乐欣如坠冰窟。

就这样，张乐欣开始了漫长的结核治疗过程。好消息是，伴随着结核药物三联方案的治疗，肠镜结果一直显示有好转，也排除了克罗恩可能。但坏消息是，三联一年后，张乐欣发现了新的瘢痕，息肉及回肠末端充血。在上海的另一家医院，医生直接告诉她，这一年半的药都吃错了，需要重新住院安排用药方案。

张乐欣说，这两年辗转于上海的各路医院，也和很多结核患者有联系。她发现，大部分患者都是从五湖四海的地方而来，在医院之间来回流转。

「我发现结核病之间的治疗，好像是有壁的。不管是从地方结核病医院到大城市的结核病医院，还是几个大三甲医院之间，甚至不同的医生，都有不同的治疗方案。」张乐欣觉得，每一次改变对于患者来说，都不亚于一次重新宣判。

「每个治疗结核病的医师，都可以保证是从专业角度出发的，但是这个出发点决定于医师水平和检查条件。」沿海地区某结核病医院副主任医师李超表示，结核病的诊疗差距，在肠结核和 IBD 上体现的尤为突出。

李超觉得，这是一种诊疗的错位。「现在一部分结核病医院的医师，并不善于对 IBD 的诊疗与管理，一些检查设备也没有大三甲医院先进；而三甲医院的诊断手段先进，但有一些医师对结核患者的处理，可能就是下诊断转到公卫医院，缺少一些对于疾病本身的思考。」

钱、时间、转诊：在定点医院之间奔走

另外，结核发现过程中，「钱和时间」也是一个很大的挑战。

在我国，为了降低患者医疗负担，公共卫生建设体系以及居民健康生命保障体系里，对结核病患者的扶持不遗余力。

2017 年，国务院办公厅印发《「十三五」全国结核病防治规划》中明确表示，加大财政支持力度，中央财政通过设立专项补助和实施基本公共卫生服务项目，不断提高保障水平，降低患者医疗负担。

在辽宁省某市疾控中心工作的丁浩，每天很大一部分时间就是给结核患者做流调，同时帮助他们去申请补贴。

丁浩分享，针对结核病患者的补助，一方面是依托于医保和慢病大病保险的医疗补贴，一方面是给予结核病患者一定的补贴，「补贴差异各个地区规定不一，但只要是定点医院建档了，肯定都是能拿到。」

图源：某医院官网

只不过，有时患者还是会卡在定点医院的环节。

住在广东某地级市的林凤霞，最近就比较头痛。林凤霞一开始是在医院体检的 CT 检查中发现疑似结核，之后 Tspot 检查也显示阳性。情况上报后，当地疾控表示需要去定点医院检查才能确诊。

辗转来到定点医院，林凤霞的结果却显示为痰液检测阴性，住院支气管镜阴性，定点医院的医生没有给阿凤一个明确的诊断，而是给了她两个方案：1、开免费抗结核药吃然后复查；2、去上级医院下诊断。

林凤霞不知道什么是结核，也不知道什么是阳性、阴性，只知道自己请了四天的假。如果没有诊断，这个月的全勤和奖金没有了，还要倒扣四天工资。

所以林凤霞咬咬牙，跟经理又请了一天假，去上级的公卫医院。

但公卫医院的医生却表示，下级医院的检验结果和上级医院是不认可的，需要重新做痰液检验和支气管镜。这让林凤霞欲哭无泪。

按照林凤霞所在公司规定，连续请假五天以上，当月绩效为 0。

文中 胡楠、张乐欣、李超、林凤霞、丁浩均系化名